（第三種郵便物認可）
河北新報
第2朝刊
平成22年（2010年）8月10日（火曜日）
©河北新報社 2010

NIE特集

Newspaper In Education

通町小

学校名　仙台市立通町小学校
所在地　仙台市青葉区通町1の1の1
電　話　022（234）2471
校　長　石垣富一郎
児　童　353人

趣ある蔵 まちの遺産

伝統のみそしょうゆ店を訪ねて！

知り隊

食文化守るのが誇り

私たちの住む通町地区は、仙台市の中心部に位置しており、マンションやビルなどがたくさん立っています。一方、神社やお寺、古い伝統を引き継ぐ商店などが多く残っている「歴史の町」でもあります。その中で、通町小の近くに昔の面影を伝える蔵造りの店「横山味噌醤油店」があります。私たちは、この趣のある店が気になり調べることにしました。

お話を伺ったのは、横山味噌醤油店の4代目、横山洋平さんです。

通町の横山洋平さんの店の前で取材する

店の創業は明治6（1873）年で、今年で137年になります。「初代は、伊達家に仕えた侍でしたが、明治時代になり仕事がなくなってしまいました。そこで当時のあこがれの商売だったみそしょうゆの店をこの通町に開店したのです」と説明してくださいました。

今の蔵は、大正時代に建てられた建物です。お店の入り口は、両側を手でスライドさせて開けるようになっています。ガラス戸の扉を開けて中に入ると、高い天井、太い梁、階段が目に入りました。木のぬくもりが感じられ、昔にタイムスリップしたような気持ちになりました。

通町は昔は商人、職人の町でしたが、蔵造りの店は少なくなり、横山さんの蔵造りのお店は今では貴重なまちの遺産です。

お店の奥には工場があり、12人が働いています。「みそ造りには半年から3年、しょうゆ造りには1年かかる」ということです。おいしいものをつくるために時間をかけているんだなあと思いました。

昔は、みそしょうゆは日本人の調味料の基本で、毎日の食事には欠かせないものでしたが、食生活の変化により、現代は使う機会が減ってきているそうです。

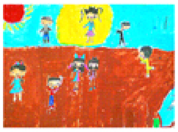
「もっと情報を発信して、現代の人たちにも、日本の伝統的な調味料である、みそしょうゆを食べてもらえるような商品の提供の仕方を考えていきたい」と横山さんは話してくださいました。食文化を守るのが誇り。常連のお客さんも多く、「このみそでないと、孫が嫌がるんだよ」と言って買っていかれる方もいるそうです。

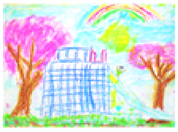
◇　◇

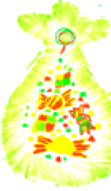
通町小よりも歴史の古い横山味噌醤油店。これからも伝統を守りながら、この地で引き継いでいってほしいと思いました。

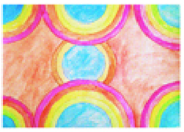
文・畑中奏美、斎藤文月（6年）

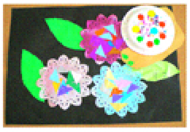
うきうきキャンバス

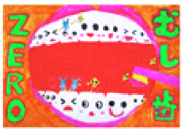

てつぼうをしているわたし
3年・岩淵由奈


ジャングルジム
2年・豊田寿哉

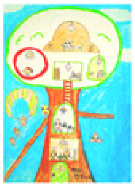

まほうのおかしのつぼ
1年・立花舞桜


にじの光
4年・山本晃一


あめだいすき　あじさいとカタツムリ
たんぽぽ学級2年・佐藤理子



虫歯ZERO
6年・畑中奏美


木のアパート
5年・平野亜海

言い隊

■ すずめ踊りで心一つ ■

「こんばんは」。すずめ踊りの練習日、市民センターに人々が続々集まって来ます。仙台・青葉まつり（5月）が近づき、大人も子どもも汗を流し一生懸命です。

祭り当日、コンテストの出番がやってきました。私は今までの練習の中で一番よい踊りをしようと思って、勾当台公園の特設舞台に上がりました。みんな、緊張しながらも笑顔で踊りました。最高賞の独眼竜政宗賞は、私たちの愛好者グループ「まつりめ〝ごひめ〟」が選ばれました。みんな抱き合って、喜びました。

すずめ踊りの練習を通して、みんなと心が一つになる素晴らしさを味わうことができました。

（6年・三浦朝日）

■ 緑いっぱいの地区に ■

通町地区には大きな建物がたくさん並んでいます。森が少なくさびしい気がしますが、それでもお寺や神社のしき地には、松や杉の木などがあり、緑を感じることができます。

私の家の近くに輪王寺というお寺があり、工事で木を伐採した跡地で毎年、植樹祭が開かれています。私は低学年の時に参加し、50㌢ほどの小さな苗木を植えました。あの時に植えた苗木はもう私より大きく育っていて、とてもうれしく思います。私は通町学区が、緑でいっぱいになることを願っています。

これからも、緑を増やす活動があったらぜひ参加したいと思います。

（6年・八重垣陽菜）

教え隊

たてわり活動

校庭をいっぱいに使ってたてわり活動＝5月

学年超えきずな強く

私たちの学校では、たてわり活動を行っています。全学年で交流をしてきずなを強め、仲良くなるのが目的です。1年生から6年生までみんな交ざった班を作り、業間休みに集まって、ゲームなどをしています。

また「通町たてわりたんけん隊」という活動もしています。地域の宝物を見つけるという活動で、ベーゴマ遊びを習ったり、七夕作りをしたりしています。地域の方にも協力していただき、いろいろな宝物を毎年見つけています。

文・阿久津きづな、遠藤未悠、三浦晴佳、森田春月（6年）

編集後記

「どきどき小学生」の新聞作りに取り組むことを先生から聞かされた時は、本当にできるのか不安でした。でも、「知り隊」の取材で古くからこの通町のことを見つめていた地域の方からたくさんのお話を伺い、この町がとても歴史の深い場所だったことにあらためて気付きました。そしてもっともっと、通町のことを知りたいという気持ちになりました。

新聞作りを通して、自分たちの住んでいる所が古くからたくさんの人に支えられてきたことを感じ、ここに住んでいることを誇りに思えるようになりました。すばらしい経験ができて良かったです。

＜編集委員＞相沢諒太、畑中奏美、斎藤文月、三浦朝日、八重垣陽菜、阿久津きづな、遠藤未悠、三浦晴佳、森田春月（6年）、伊藤梗真、萩原朝香、半沢莞大、芳賀瑠璃果（5年）
題字デザイン　萩原朝香、芳賀瑠璃果（5年）
＜指導教諭＞加藤真理、小島清美、高橋早苗、藤原洋、太田秀俊

毎月第2・4火曜日発行
これまでの掲載校の紙面を河北新報のホームページ（KOLNET）で見ることができます。